

2024 年(令和 6 年)度事業の基本方針

新型コロナウイルス感染症の影響は、経済活動・日常生活においても少なくなり、財団事業もほぼほぼコロナ以前に戻しての活動が可能となってきた。

2023 年のベネッセの MB0 により、2024 年度から当財団の収益構造が大きく変更となる。収益の大半を占めていた基本財産ベネッセホールディングス株式の配当は、年度末の売却によってなくなり、2024 年度以降は現金 52 億 2,440 万円が基本財産となり、その運用により事業活動費、運営費の財源とする。持続可能で安定的な事業活動ができるよう、従来の事業活動と同様に資産運用にも注力していかねばならない。

(1) 基本の方針

- ・ ベネッセ株配当収益から資産運用収益変更の開始年でもあり、持続可能な事業活動と安定した財団運営実施のため、従来の収益が確保できるよう資産運用面において留意する。
- ・ 従来以上の収益見込みが立つまでは、これまでの収益規模での事業・運営を組み立てる。予算(支出)増を伴う事業活動の拡充や新規事業へのトライアルは慎重にし、従来活動の深化や整備に重きをおいた展開とする。
(2026 年度の設立 40 周年からの拡充、新規展開を念頭に置く。)
- ・ 40 周年からの展開に向けて、岡山の地におけるこれからの『福武らしい』財団活動について検討し、言語化するとともに共有・周知していく。

(2) 表彰事業

- ・ 更なる福武教育文化賞の価値を高めるべく、よりレベルが高く多くの候補者から選考できるよう、情報収集及び広報活動を強化する。
- ・ 受賞者による地域貢献・活性化活動をサポートすべく、「受賞後の 3 か年継続助成」の活用を受賞者に寄り添い促進していく。結果、同賞の周知拡大に繋げる。

(3) 助成事業

- ・ ローカル財団である長所を伸ばし、助成先とのコミュニケーションを質量ともに深化させる。資金面での支援のみならず、助成先に寄り添う財団としての関係性を築く。
- ・ 助成事業全般の運営整備や助成先へルール内容の周知方法等、丁寧かつ確実にいき、助成先活動のレベルアップをサポートする。
- ・ 40 周年に向け、時代を先取りした助成プログラムの研究・開発を行う。

(4) その他

- ・ 新たな収益構造により将来的な収益増が見込めた際の、組織体制・事業活動規模・新規展開・運用等について、40 周年(2026 年度)時に展開できるよう検討を開始する。
- ・ 財団運営業務をより可視化し、効率化・合理化した(財団職員ならではの業務に特化)業務に整理され、業務分掌となる体制をつくる。

2024年(令和6年)度事業計画

(単位：千円)

公益目的事業Ⅰ 教育文化活動支援事業 (定款第4条1項第1号)

予算総額 150,270 (2023年度当初 152,670 今回補正後 148,740 ※共通経費を含む)

1 表彰事業 予算総額 4,540 (2023年度当初 4,000 今回補正後 4,493)

- … 福武教育文化賞の趣旨、実績の更なる周知に努め、また、推薦者とのコミュニケーションを深化させ推薦数の増加を図り、その中から福武教育文化賞にふさわしい受賞者を顕彰する。
贈賞式は、2023年度同様単独開催とし、各受賞者から活動内容と今後についての発表機会を設定する。受賞後3か年のフォロー助成制度活用へのサポートも拡充していく。

福武教育文化賞

- 《目的》 岡山県の教育文化の振興に顕著な業績をあげ、今後の更なる貢献が期待される個人・団体を表彰し、功績を称えとともに後進の目標とする。
《対象》 岡山県内に在住又は岡山県に関わりのある者に贈るものとし、岡山県の教育文化の向上に著しい貢献が期待される個人又は団体を対象とする。教育、文化の両面から地域課題に取り組み、地域振興への貢献ができていることを重視する。
《推薦》 岡山県教育委員会、市町村教育委員会等教育関係団体、報道機関等からの推薦
《賞》 表彰状、賞牌及び副賞(30万円)賞は3~5件程度
《選考》 選考委員会で選考し、理事現在数の2分の1以上の同意を得て理事長が決定
《予定》 5月告知、6~7月推薦受付、8月中下旬選考委員会、11月9日贈賞式(予定)

2 助成事業 予算総額 63,850 (2023年度当初 67,250 今回補正後 62,914)

- … 「教育文化活動助成」として、教育及び文化の視点から地域振興を図る活動全般に助成する。公募・特定・受賞者フォロー助成ともに、助成先との丁寧なコミュニケーションを図り、資金面支援に加え、寄り添う助成事業を追究していく。その一環として、事前に助成事業の年間の流れやルールを理解していただく『うたて』(事前説明会)を助成事業ごとに実施する。
成果報告会は、オンライン形式と、対面形式の2形式で実施する。助成団体、審査委員等、相互に交流する機会も設ける。
特定助成は2024年度は従来通り、①先進的事業助成、②グローバル化事業助成、③瀬戸内文化育成助成の3分類とする。2025年度の枠組み(分類)設定は、別途検討する。

- (1) 教育文化活動助成(公募助成) 予算額 35,080 (2023年度当初 36,000 今回補正後 34,835)
- 《目的》 教育及び文化の視点から地域振興を図る活動による人づくり・地域づくりを応援し、地域が活性化することを期待して、教育文化に関する有意義な実践活動等に助成する。
- 《活動》 教育又は文化を手段に用いて、岡山県内で実施される地域社会の課題解決と社会的価値の創造を図る活動(教育文化の質の向上も含む)。申請区分は以下の4類型とする。
1. 地域社会(コミュニティ)の活性化のために取り組む活動
 2. 次世代育成に取り組む活動
 3. 教育の質の向上や普及に取り組む活動
 4. 文化芸術の質の向上や普及に取り組む活動

《助成額》 原則 1 件当たりの上限は 30 万円

《期 間》 2024 年（令和 6 年）度中に実施する事業

《審 査》 審査委員会（4 部会 16 名）で審査し、理事現在数の 2 分の 1 以上の同意を得て決定

《予 定》 12～1 月申請受付、3 月審査委員会、4 月事業開始、9 月成果報告会

- ・ 運用面においては、新規助成先が増加している状況も踏まえ、活動内容変更時ルール、助成金使途ルールの周知を図るとともに、成果報告書・会計報告等精査を従来以上に力を注ぐ。
- ・ 助成先活動に可能な限り参加し、コミュニケーションを強化するとともに関係性構築に努める。

(2) **福武教育文化賞受賞者フォロー助成 予算額 4,500**（2023 年度当初 3,900 今回補正後 3,550）

《目 的》 福武教育文化賞の受賞者に対して、受賞後も継続して質の向上と人づくり・地域づくりの活動を行うことを促すため、受賞後 3 か年 30 万円を限度として申請に基づき助成する。15 件を見込む。

- ・ 全対象受賞者にフォロー助成の目的や趣旨の周知をはかり、計画性をもって助成金使用、活動ができるよう、より丁寧にサポートする。

(3) **特定の特色ある活動に対する助成（特定助成）**

予算額 23,470（2023 年度当初 26,550 今回補正後 24,529）

教育文化活動支援のうちで、公益性が明確で、継続的に支援しなければ効果的でないものに次の 3 分類に分けて助成する。

- ・ 特定助成の趣旨周知を徹底するとともに、公募助成先と同様にコミュニケーションの強化を図り、活動視察を積極的に実施する。助成先によっては、自立に向けてのシナリオ設計を促すとともその支援を行う。
- ・ 2025 年度に向けて、特定助成の枠組み、採択基準等について再検討する。

① **先進的事業助成 予算額 21,380**（2023 年度当初 23,050 今回補正後 21,280）

新たな教育文化的価値の創造に寄与する先進的かつ実践的な活動を行う団体等に対して助成する。

- ・ ハロー！ミュージアム事業[公募：小学校 10 校程度]（2,000）
- ・ 高校生・大学生アクション助成事業[公募など：10 件程度]（2,000）
- ・ 岡山大学国吉康雄寄付講座[岡山大学]（10,500）

【高校・大学等と地域の連携・協働を推進する活動】

- ・ 健康と豊かな人生を創るためのビジュアルアート教育[Wellness & Artistic Okayama]（300）
- ・ 真備地区中学生対象地域探究活動支援[がくまび]（280）

【多様な芸術文化鑑賞支援】

- ・ 宵のサロン[須賀みほ]（1,200）
- ・ 国吉祭 2024CARAVAN と関連事業[一般社団法人 クニヨシパートナーズ]（500）
- ・ 「岡山の美術」活性化事業 [岡山県立美術館/実行委員会]（2,000）
- ・ 「森の芸術祭」 [岡山県/同実行委員会]（300）
- ・ 旭川河畔拠点形成と地域再生プロジェクト [特定非営利活動法人 アートファーム]（1,000）

【その他】

- ・ 学校出前講座 [公益社団法人 岡山県文化連盟]（1,000）
- ・ より多くの子どもたちへ「いきるちから」を伝えよう[いのちのおはなし岡山]（300）

② **グローバル化事業助成 予算額 600**（2023 年度当初 1,500 今回補正後 1,500）

多文化共生のネットワーク作りを進める事業へ助成する。

- ・ 外国にルーツのある親子の居場所と多文化共生社会への取組[居場所作りネットワーク]（600）

③ 瀬戸内文化育成助成 予算額 600 (2023 年度当初 1,150 今回補正後 850)

瀬戸内文化の育成、創出のために必要なプロジェクトに対して助成する。

- ・ 地域を愛し地域から愛される子どもを育てる山南ふるさと学習[SANNAN 犬島プロジェクトチーム] (300)
- ・ 犬島の関係人口を創る『くらしを楽しむワークショップ』[犬島ととと倶楽部] (300)

(4) 公募助成に準じる緊急を要する等の助成 予算額 800 (2023 年度当初 800 今回補正後 0)
年度途中で申し出のある緊急を要する教育文化活動に対して助成する。

3 研修会等開催事業 予算総額 2,044 (2023 年度当初 1,400 今回補正後 1,223)

(1) 福武教育文化振興財団フォーラム

2023 年で 10 回の節目を迎え、第 2 期としてのスタートを切る。上期に第 2 期の設計を行い、1 月に実施する。方向性としては、今後の財団活動の指針となる講演会等を開催し、更に財団の発信力強化につなげ、参加者の交流を図る。

(2) and F 教室

助成団体・個人に共通する課題（運営・基盤等）を解決することに繋がる実践的なセミナーを複数回実施する。テーマや内容によって、対面形式・オンライン形式とする。

4 調査研究事業 予算総額 150 (2023 年度当初 900 今回補正後 1,523)

- ・ 公募助成事業についての従来の振り返りと今後の対応についての調査研究
公益目的事業の柱となる公募助成について、研修合宿等を通じ、審査委員・役員・評議員の参加のもと、その在り方等、協議検討する。
世情を反映したり、時代を先取りしたりする新たなプログラムを研究する。
- ・ 優れた事例の調査研究
中長期の観点から、先進的な事例を学ぶための視察を実施する。

5 主催公演事業 予算総額 0 (2023 年度 0)

2024 年度は実施せず、財団設立 40 周年事業において、実施することとしたい。

この事業は、2018 年度に「新岡山のいろ・かたち」事業（岡山から全国、世界に発信できる芸術文化の公演を行う。岡山の誇れる文化や芸術、またそれらが交流連携した新たな魅力が発信される公演機会を年に一度、Junko Fukutake Hall で提供する）として新設したが、財源不足のため、現在まで休止している。

6 広報事業 予算総額 9,324 (2023 年度当初 10,920 今回補正後 8,857)

(1) 一般広報

① 財団公式 Web サイト

教育文化活動助成団体の成果報告書が簡便に検索できるアーカイブを 2022 年度より運営しているが、さらなる充実と活用促進に努める。外部団体とも連携し、助成団体の活動を Web サイト上で発信し、側面的支援を充実させる。

② 財団機関誌「ふえき」

2023 年度から 4 ページ増頁し 20 頁で、年 3 回発刊の内容充実を努める。

③ 自治体・行政等との関係性充実

福武教育文化賞の推薦・公募助成の周知他、財団事業の認知を深めるべく、福武教育文化賞の推薦時期、公募助成公募開始時期を中心に、巡回営業を実施する。

(2) 瀬戸内国際芸術祭広報

スタディツアーをベースに行う。総括を踏まえ、プログラム、対象、実施時期、広報展開など見直し再設計する。2025年に開催の瀬戸内国際芸術祭の実施概要が見えてきた時点で、2025年度広報の方向性（2024年度から実施可能なもの含め）を固め、準備を開始する。

7 周年記念事業 予算総額 0（2023年度当初 0 今回補正後 0）

財団設立35周年事業は、2023年度で終了した。設立40周年（2026年度）を目途に準備を始めるが、2024年度は積み立てのみとする。

- ・ 2023年度は、周年事業として福武教育文化賞贈賞式時に山陽新聞への出稿をしたが、節目の5年・10年以外は広報事業に移行して実施する。